

Lasertec News 16

株 主 通 信 第 5 5 期 第 2 四 半 期 累 計 期 間 (2016年7月1日~2016年12月31日)

飛躍的成長を目指し、
新中期経営計画を着実に推進



Lasertec

証券コード6920



半期における 受注高が過去最高

レーザーテック株式会社 代表取締役社長
岡林 理

第2四半期連結累計期間の業績報告

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、堅調な回復が続く米国では、次期大統領にトランプ氏が決定以来、財政拡張政策への期待からさらに景況感の改善が進み、株高、米ドル高が進行しています。欧州では、英国のEU離脱問題の影響が限定的だったことから、全体としては緩やかな回復基調となりましたが、中国や多くの新興国では、減速基調が続きました。わが国経済は、緩やかな回復を続けているものの、個人消費は力強さを欠く状態が続いています。一方11月からの急激な円安への揺り戻しにより、輸出企業を中心に今年度の収益押し上げが期待されます。

当社グループの主要販売先である半導体業界では、DRAM、NANDの両メモリーともに価格が上昇し、特に

3D-NAND向け投資が活発になってきています。また大手ファウンドリも、10nmノードなど微細化のための先端設備投資を高い水準で継続しています。その他の事業領域に関しては、FPD業界において、中国における投資が拡大するとともに、液晶から有機ELパネルへの移行が始まっています。

このような状況下、当第2四半期連結累計期間の売上高は、88億10百万円（前年同期比31.6%増）となりました。営業利益につきましては26億99百万円（同107.0%増）、また親会社株主に帰属する四半期純利益は19億38百万円（同107.5%増）となり、前年同期を上回る好調な決算を達成いたしました。

今後の見通しにつきましては、通期で過去最高となる売上高166億円を見込みます。また、営業利益42億50百万円、親会社株主に帰属する当期純利益30億円を見込んでおります。

第2四半期連結累計期間の受注に関して

当第2四半期連結累計期間の受注高は、122億77百万円（前年同期比78.2%増）となりました。当社創業以来、初めて半期で100億円以上の受注を達成しました。これは主に、先端ラインに向けた半導体マスク欠陥検査装置MATRICSの受注が好調に推移したことによります。

今後も積極的に受注を獲得し、通期においても過去最高の受注額達成を目指して営業活動を進めてまいります。

新中期経営計画フェーズⅢに向けて

当社は当期（2017年6月期）初めに、新中期経営計画のフェーズⅢを新たに設定し、このフェーズⅢの期間（2019年6月期～2021年6月期）において、大きく売上を伸ばし成長を推し進める計画を発表いたしました。

当期は、新中期経営計画におけるフェーズⅡの2年目に当たり、フェーズⅢで飛躍的な成長を成し遂げるための準備を着々と進めております。

具体的には、コアビジネスである半導体マスク欠陥検査装置MATRICSやマスクブランク欠陥検査装置MAGICS、FPDマスク欠陥検査装置CLIOSの競争力をさらに強化し、高シェアの維持拡大に努めます。

新規事業では、いよいよ実用化が始まる次世代リソグラフィ技術であるEUVL（極端紫外線露光）に対応した製品を開発し、2019年6月期以降の飛躍的売上拡大のための受注活動を進めます。すでに、EUVマスク裏面検査/クリーニング装置BASICは、複数台の販売実績を記録しました。また当社は、EIDEC（(株)EUVL基盤開発センター）*とのEUVマスクブランク欠陥検査装置（ABI）共同開発プログラムを成功裏に完了いたしました。

レーザーテックは、世界中のお客さまのご要望にお応えできる製品を開発し、お客さまに貢献すると同時に、さらなる業績向上と成長を目指してまいります。株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

* 現社名(株)先端ナノプロセス基盤開発センター。(コンソーシアム企業)
(株)EUVL基盤開発センターはプログラム開発当時の社名。

第2四半期連結累計期間 業績ハイライト

売上高

8,810 百万円

前年同期比 31.6%増 

受注高

12,277 百万円

前年同期比 78.2%増 

営業利益

2,699 百万円

前年同期比 107.0%増 

純利益*

1,938 百万円

前年同期比 107.5%増 

* 親会社株主に帰属する四半期純利益

1. 第5回(2016年度)企業価値向上表彰の表彰候補(50社)に選出(2016年9月26日)

(株)東京証券取引所は、企業価値向上を目指す経営を実践している会社を表彰する「企業価値向上表彰」を実施しています。当社は、投資者の視点を意識した企業価値向上経営への取り組みが評価され、東証市場に上場する全上場会社(約3,500社)の中から、表彰候補会社50社に選出されました。

2. 新製品発売：リソグラフィプロセス検査装置「LX530」(2016年12月1日)

半導体のパターニング工程で、ウェハ面内のパターン線幅(以下CD)異常・ばらつきを高速かつ高感度で検出する検査装置を発売しました。従来使用されているCD-SEM(ウェハ上に形成された微細パターンの寸法計測用に専用化した走査型電子顕微鏡)での測定は測定速度が遅いため、測定箇所が面内数十ポイントに制限され、局所的に発生するCDのばらつきを検出することが困難でした。LX530は高速のためウェハ全面の線幅ばらつきを捉えることが可能となり、最先端デバイスの製造におけるCD管理に貢献します。



3. 新指数「JPX日経中小型株指数」を構成する200銘柄に選定(2016年12月14日)

(株)東京証券取引所と(株)日本経済新聞社が新たな株価指数として共同開発を行った「JPX日経中小型株指数」の構成200銘柄に選定されました。

「JPX日経中小型株指数」

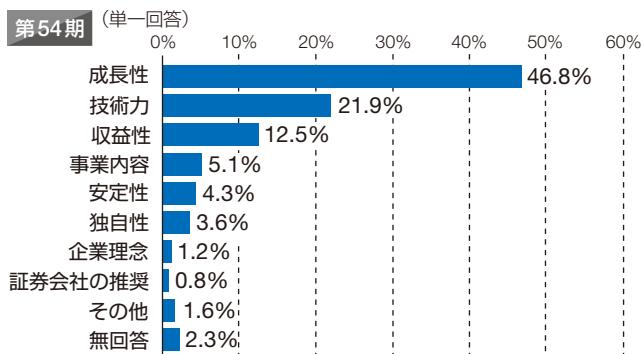
対象銘柄は東証の市場第一部、市場第二部、マザーズ、JASDAQを主市場とする普通株式。時価総額や売買代金で中小型株の範囲を決め、直近3年間の平均ROE(自己資本利益率)と営業利益累計額を使って順位を決定し、定性条件も加味し選定。2016年8月31日を起算日とし、同日の指数を10,000とする。2017年3月13日から算出開始。

株主さまアンケート結果のご報告

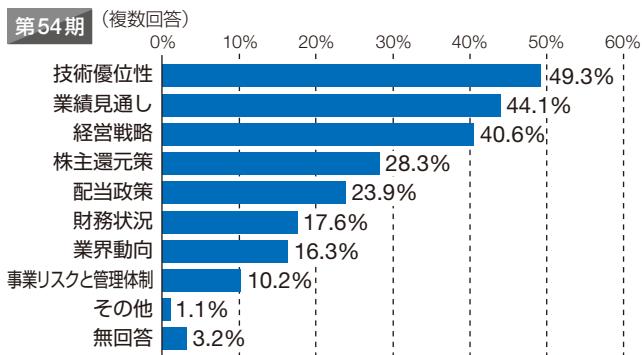
Lasertec News 15同封のアンケートにご協力いただきまして、誠にありがとうございました。今回は、884名の株主さまよりご回答をいただきました(回答率17.3%)。

下記に、集計結果の一部をご報告いたします。

当社の株式をご購入の際、何を最も重視されましたか？



当社により詳細な開示を期待されるIR情報はどのようなものでしょうか？



当社の株式をご購入の際もっとも重視されているのは、上位から成長性、技術力、収益性となり、上位3位は第47期以降同様の結果となりました。また開示を期待するIR情報としては、技術優位性、業績見通し、経営戦略の順となりました。当社はアンケートによる貴重なご意見をもとに、求められている情報の提供と積極的な開示を目的として、Webサイトをリニューアルし、スマートフォンサイトを新設しました。経営戦略を詳しくご紹介するとともに、業績ハイライトを見やすくいたしました。これからも皆さま

のご期待に応えるべく、当社に関する情報をタイムリーに分かりやすく提供してまいります。

自由記述欄にご要望やご意見をご記入いただきました株主さまにお答えいたします。

1 IoT、AIなど第4次産業革命に貢献する技術・製品開発を期待します。

IoT(モノのインターネット：あらゆるモノをインターネットにつなぐこと)やAI(人工知能)など、さまざまな技術革新に伴い半導体需要が拡大すると予測されています。IoT社会では通信、インフラの充実が不可欠であり、それに伴い各種デバイス、イメージセンサなどの需要が高まります。またさらなる高性能化、薄型化、省電力化や低コスト化が求められ、ますます検査ニーズは増えると考えております。当社は主力となる半導体検査・計測装置の分野で、最先端デバイスの生産性向上に貢献してまいります。

2 ROA・ROE(総資産利益率・自己資本利益率)の持続的向上に努めてください。

中期経営計画を着実に進め、高い技術力をもって市場開拓に経営資源を投入し、スピード開発で市場シェアを高めてきた結果、ROA・ROEはともに高い水準となっています(第54期 ROA:13.0%、ROE:15.5%)。今後もお客さまが高い付加価値を求めている市場で、技術的に差別化できる製品の提供により、収益力の高い企業経営を推進いたします。

3 配当の強化および自社株買いを検討してください。

当社の利益配分に関する基本方針は、安定的な利益還元を行うとともに、業績に応じた弾力的な配当政策を実施し、連結での配当性向35%を目安とすることとしています。また資金は、研究開発など成長のための投資に積極的に回すことで、企業価値を高めています。成長のために有効な資金の使い道があることと、自社株買いで市場に流通する株式数を減少させるのは、株式の流動性の点ではマイナスになることから、現時点では自社株買いは実施していません。

今後も、株主さまからの貴重なご意見・ご要望を経営に反映させるよう、引き続き努力してまいります。

2017年6月期（第55期）第2四半期累計期間の連結決算のご報告

連結貸借対照表(要約)

(百万円未満切り捨て)

科目	当第2四半期 2016年12月31日	前第2四半期 2015年12月31日	前連結会計年度 2016年6月30日	科目	当第2四半期 2016年12月31日	前第2四半期 2015年12月31日	前連結会計年度 2016年6月30日
資産の部				負債の部			
流動資産	20,853	15,850	18,799	流動負債	5,213	3,039	3,839
				固定負債	208	196	222
固定資産	7,399	7,151	7,070	負債合計	5,422	3,235	4,061
				純資産の部			
資産合計	28,252	23,001	25,870	株主資本	22,628	19,545	21,839
				① 純資産合計	22,830	19,765	21,808
				負債純資産合計	28,252	23,001	25,870

連結損益計算書(要約)

(百万円未満切り捨て)

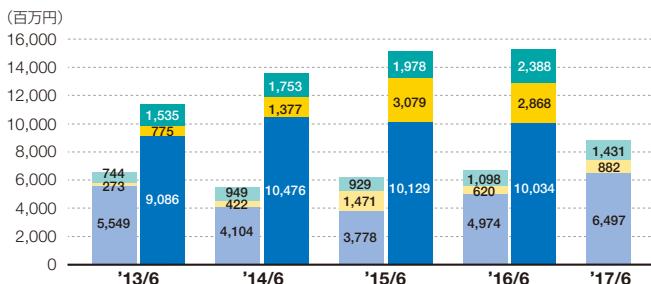
科目	当第2四半期 (自2016年7月1日 至2016年12月31日)	前第2四半期 (自2015年7月1日 至2015年12月31日)	前連結会計年度 (自2015年7月1日 至2016年6月30日)
② 売上高	8,810	6,693	15,291
売上原価	3,667	3,251	6,403
売上総利益	5,143	3,441	8,887
販売費及び一般管理費	2,444	2,137	4,459
③ 営業利益	2,699	1,304	4,428
③ 経常利益	2,762	1,305	4,575
③ 親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	1,938	934	3,227

連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(百万円未満切り捨て)

科目	当第2四半期 (自2016年7月1日 至2016年12月31日)	前第2四半期 (自2015年7月1日 至2015年12月31日)	前連結会計年度 (自2015年7月1日 至2016年6月30日)
④ 営業活動による キャッシュ・フロー	△627	1,275	3,083
投資活動による キャッシュ・フロー	△209	△55	△368
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,150	△1,037	△1,038
現金及び現金同等物の 期首残高	7,967	6,537	6,537
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	6,013	6,672	7,967

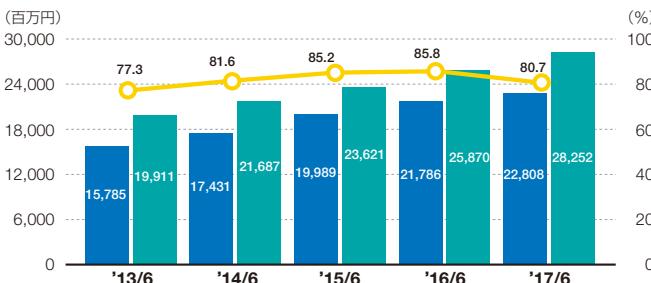
製品別売上高



■ 半導体関連装置 (第2四半期/通期) ■ サービス (第2四半期/通期)
■ その他 (第2四半期/通期)

※2014年6月期より、これまでのFPD関連装置およびレーザー顕微鏡の売上高は、その他とすることに変更し、過去の製品別売上高も遡及修正しています。

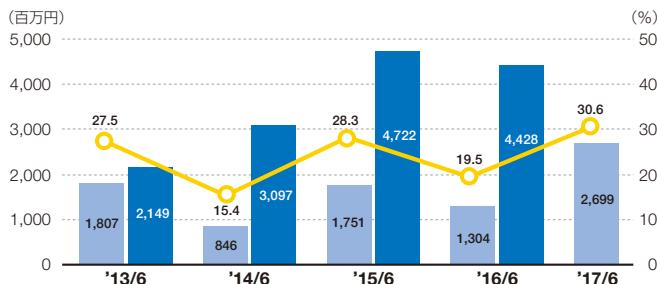
自己資本・資産合計・自己資本比率



■ 自己資本* ■ 資産合計* ○ 自己資本比率 (第2四半期)

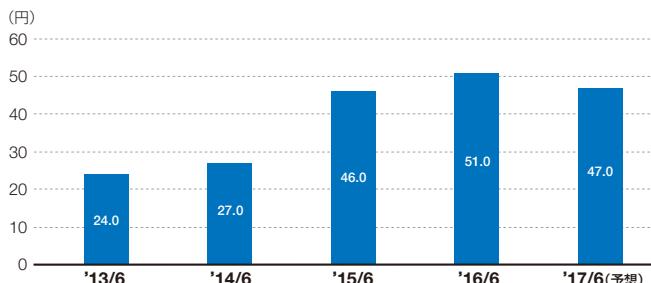
* '13/6-'16/6:通期 '17/6:第2四半期

営業利益・営業利益率



■ 営業利益 (第2四半期/通期) ○ 営業利益率 (第2四半期)

年間配当金



※2013年7月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しております。上記の数字は株式分割が2012年6月末時点で実施されたものとして計算したものです。

第2四半期：7月1日～同年12月31日 通期：7月1日～翌年6月30日

決算のポイント

① 純資産合計

株主資本にその他の包括利益累計額および新株予約権を加えた純資産合計は、228億30百万円となりました。自己資本比率は80.7%で、引き続き財務の健全性を維持しています。

② 売上高

半導体マスク関連装置が牽引し、半導体関連装置が前年同期比で大きく売上を伸ばした結果、売上高は期初予想を上回りました。

③ 利益

主に為替の変動や原価率の改善により、期初予想を大きく上回りました。

④ 営業活動によるキャッシュ・フロー

売上債権の増加、法人税等の支払い、たな卸資産の増加などの支出要因が、税金等調整前四半期純利益、前受金の増加などの収入要因を上回りました。

会社概要 (2016年12月31日現在)

社名	レーザーテック株式会社
所在地	〒222-8552 神奈川県横浜市港北区新横浜二丁目10番地1
設立	1962年8月
資本金	9億3,100万円
主な事業内容	下記製品の開発・製造・販売・サービス 1. 半導体関連装置 2. エネルギー・環境関連製品 3. レーザー顕微鏡関連製品 4. FPD関連装置
従業員数	連結 269名 単体 198名

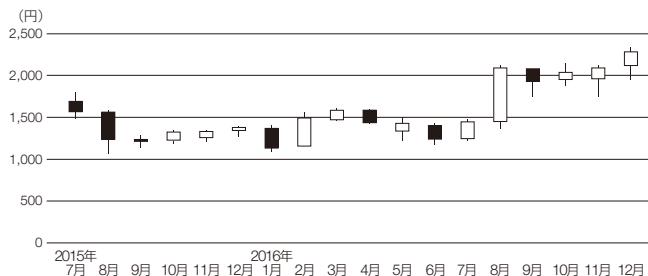
株式情報 (2016年12月31日現在)

株式概要

上場市場	東京証券取引所市場第一部	
発行済株式総数	23,571,600株	
株主数	3,815名	
大株主一覧	所有株式数(株) 持株比率(%)	
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,276,200	5.41
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,168,200	4.95
内山 靖子	1,001,600	4.24
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	952,800	4.04
内山 洋	870,800	3.69
株式会社三菱東京UFJ銀行	752,000	3.19
内山 秀	697,000	2.95
前田 せつ子	646,800	2.74
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505224	504,100	2.13
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) RE-HCR00	493,200	2.09

(注)上記のほか、当社は発行済株式総数に対し、4.35%の自己株式を保有しています。

株価の推移



役員

代表取締役社長 岡林 理	社外取締役 梶川 信宏 海老原 稔 下山 隆之
代表取締役副社長 楠瀬 治彦	常勤監査役 塚崎 健明
常務取締役 内山 秀	監査役 古賀 一正 齋藤 侑二 石黒 美幸
取締役 森泉 幸一 関 寛和	

株主メモ

事業年度	7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	毎年9月
基準日	毎年6月30日(なお、その他必要あるときは、あらかじめ公告した日)

単元株式数	100株
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座管理機関	
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

公告掲載URL <http://www.lasertec.co.jp>

ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。

(ご注意)

- 株主さまの住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、口座を開設されている口座管理機関(証券会社など)にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行の本店でお支払いいたします。

当社Webサイトのご案内

<http://www.lasertec.co.jp>

2016年12月、Webサイトをリニューアルしました。IR情報をさらに充実させ、スマートフォン対応サイトも開設しました。ぜひご覧ください。

